

2 被虐待児童の状況

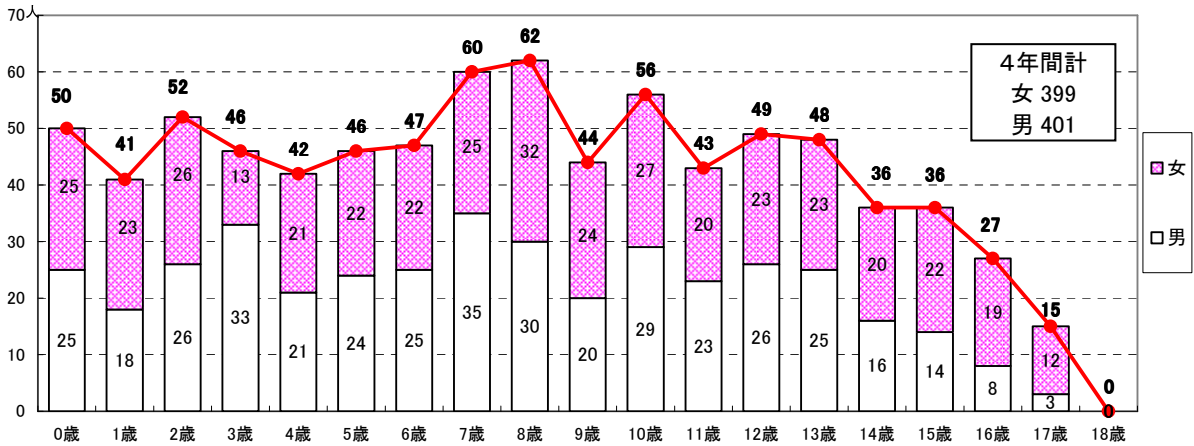
(1) 年齢・性別

○被虐待児童を男女別にみると、男児 401 人(50.1%)、女児 399 人(49.9%)で、ほぼ同数である。

○年齢別に虐待重症度を見ると、0歳が「生命の危機」の半分を占め、年齢が上がると、虐待の重症度は下がる傾向にある。これは、乳幼児の場合、身体的に未発達であるため、虐待行為が即生命や身体の危機につながりやすいことによる。

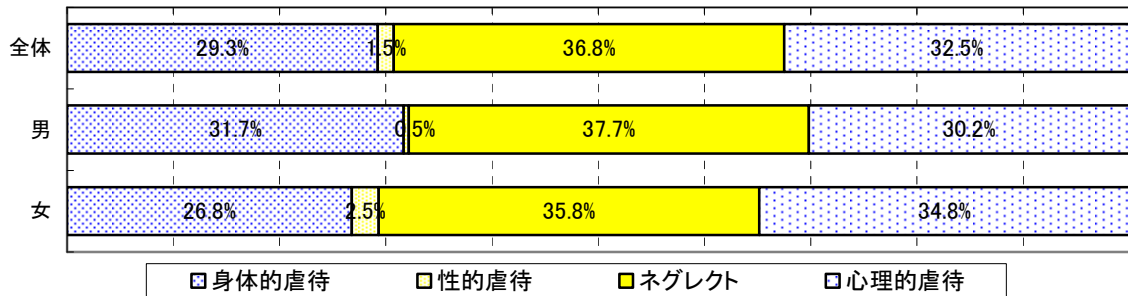
①被虐待児童の性別、年齢

図-12



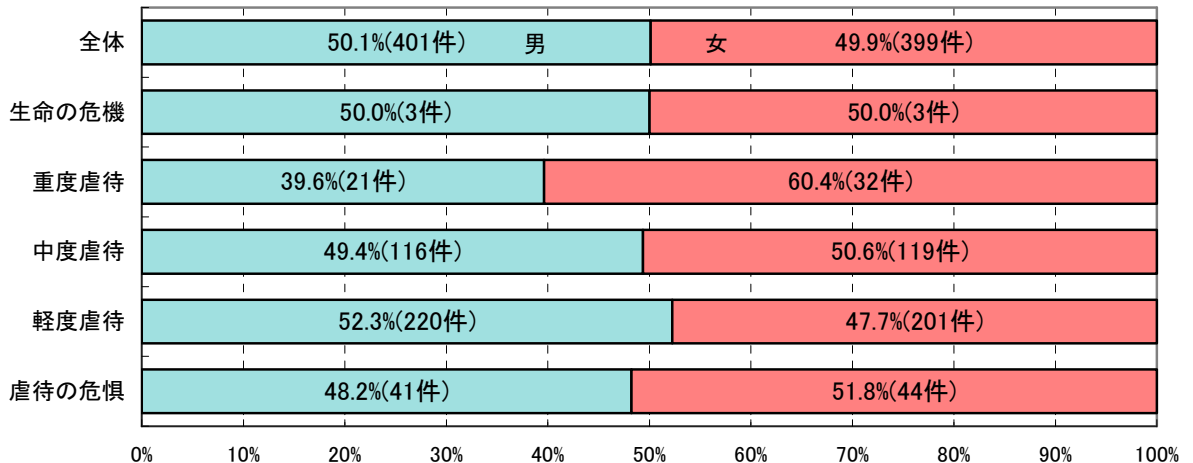
②被虐待児童の性別と虐待種別

図-13



③被虐待児童の性別と虐待重症度

図-14



③被虐待児童の年齢と虐待種別

表-20 (件数、縦構成比)

	身体的虐待		性的虐待		ネグレクト		心理的虐待		DV目撃以外		DV目撃		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
0歳	8	3.4%	0	0.0%	35	11.9%	7	2.7%	2	1.1%	5	5.8%	50	100%
1歳	5	2.1%	0	0.0%	20	6.8%	16	6.2%	9	5.2%	7	8.1%	41	100%
2歳	18	7.7%	0	0.0%	20	6.8%	14	5.4%	9	5.2%	5	5.8%	52	100%
0～3歳未満	31	13.2%	0	0.0%	75	25.5%	37	14.2%	20	11.5%	17	19.8%	143	100%
3歳	18	7.7%	0	0.0%	12	4.1%	16	6.2%	10	5.7%	6	7.0%	46	100%
4歳	13	5.6%	0	0.0%	17	5.8%	12	4.6%	9	5.2%	3	3.5%	42	100%
5歳	12	5.1%	1	8.3%	12	4.1%	21	8.1%	13	7.5%	8	9.3%	46	100%
3～6歳未満	43	18.4%	1	8.3%	41	13.9%	49	18.8%	32	18.4%	17	19.8%	134	100%
6歳	19	8.1%	1	8.3%	13	4.4%	14	5.4%	7	4.0%	7	8.1%	47	100%
7歳	21	9.0%	0	0.0%	21	7.1%	18	6.9%	12	6.9%	6	7.0%	60	100%
8歳	16	6.8%	2	16.7%	19	6.5%	25	9.6%	13	7.5%	12	14.0%	62	100%
9歳	13	5.6%	0	0.0%	19	6.5%	12	4.6%	8	4.6%	4	4.7%	44	100%
10歳	13	5.6%	0	0.0%	24	8.2%	19	7.3%	13	7.5%	6	7.0%	56	100%
11歳	12	5.1%	1	8.3%	16	5.4%	14	5.4%	10	5.7%	4	4.7%	43	100%
6～12歳未満	94	40.2%	4	33.3%	112	38.1%	102	39.2%	63	36.2%	39	45.3%	312	100%
12歳	10	4.3%	2	16.7%	16	5.4%	21	8.1%	18	10.3%	3	3.5%	49	100%
13歳	16	6.8%	1	8.3%	16	5.4%	15	5.8%	13	7.5%	2	2.3%	48	100%
14歳	10	4.3%	1	8.3%	14	4.8%	11	4.2%	9	5.2%	2	2.3%	36	100%
12～15歳未満	36	15.4%	4	33.3%	46	15.6%	47	18.1%	40	23.0%	7	8.1%	133	100%
15歳	15	6.4%	2	16.7%	9	3.1%	10	3.8%	8	4.6%	2	2.3%	36	100%
16歳	8	3.4%	0	0.0%	8	2.7%	11	4.2%	7	4.0%	4	4.7%	27	100%
17歳	7	3.0%	1	8.3%	3	1.0%	4	1.5%	4	2.3%	0	0.0%	15	100%
18歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
15～18歳未満	30	12.8%	3	25.0%	20	6.8%	25	9.6%	19	10.9%	6	7.0%	78	100%
計	234	100%	12	100%	294	100%	260	100%	174	100%	86	100%	800	100%

④被虐待児童の年齢と虐待重症度

表-21 (件数、縦構成比)

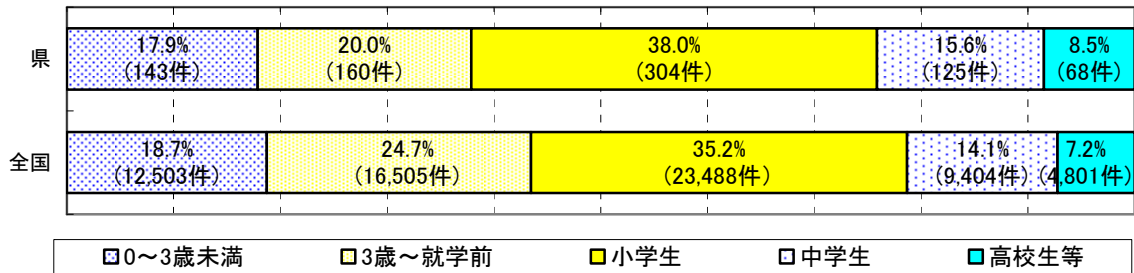
	生命の危機		重度虐待		中度虐待		軽度虐待		虐待の危機		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
0歳	3	50.0%	6	11.3%	7	3.0%	19	4.5%	15	17.6%	50	100%
1歳	0	0.0%	2	3.8%	11	4.7%	20	4.8%	8	9.4%	41	100%
2歳	1	16.7%	4	7.5%	8	3.4%	29	6.9%	10	11.8%	52	100%
0～3歳未満	4	66.7%	12	22.6%	26	11.1%	68	16.2%	33	38.8%	143	100%
3歳	0	0.0%	0	0.0%	13	5.5%	25	5.9%	8	9.4%	46	100%
4歳	1	16.7%	2	3.8%	18	7.7%	18	4.3%	3	3.5%	42	100%
5歳	0	0.0%	4	7.5%	13	5.5%	26	6.2%	3	3.5%	46	100%
3～6歳未満	1	16.7%	6	11.3%	44	18.7%	69	16.4%	14	16.5%	134	100%
6歳	0	0.0%	2	3.8%	12	5.1%	28	6.7%	5	5.9%	47	100%
7歳	1	16.7%	1	1.9%	18	7.7%	36	8.6%	4	4.7%	60	100%
8歳	0	0.0%	2	3.8%	18	7.7%	37	8.8%	5	5.9%	62	100%
9歳	0	0.0%	4	7.5%	13	5.5%	24	5.7%	3	3.5%	44	100%
10歳	0	0.0%	3	5.7%	15	6.4%	33	7.8%	5	5.9%	56	100%
11歳	0	0.0%	2	3.8%	16	6.8%	23	5.5%	2	2.4%	43	100%
6～12歳未満	1	16.7%	14	26.4%	92	39.1%	181	43.0%	24	28.2%	312	100%
12歳	0	0.0%	6	11.3%	17	7.2%	25	5.9%	1	1.2%	49	100%
13歳	0	0.0%	4	7.5%	15	6.4%	28	6.7%	1	1.2%	48	100%
14歳	0	0.0%	1	1.9%	15	6.4%	14	3.3%	6	7.1%	36	100%
12～15歳未満	0	0.0%	11	20.8%	47	20.0%	67	15.9%	8	9.4%	133	100%
15歳	0	0.0%	5	9.4%	10	4.3%	17	4.0%	4	4.7%	36	100%
16歳	0	0.0%	3	5.7%	11	4.7%	12	2.9%	1	1.2%	27	100%
17歳	0	0.0%	2	3.8%	5	2.1%	7	1.7%	1	1.2%	15	100%
18歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
15～18歳未満	0	0.0%	10	18.9%	26	11.1%	36	8.6%	6	7.1%	78	100%
計	6	100%	53	100%	235	100%	421	100%	85	100%	800	100%

(2) 被虐待児童の在学状況

- 在学状況の割合は、全国とほぼ同じ傾向にある。
- 虐待種別との関係では、全体的に乳幼児～小学生の割合が高いが、「性的虐待」については、中高生の割合が高くなっている。これは、被害を受けやすい年代にあること、また以前から被害を受けていたことも含め、周りに訴えることができる年代であることに関連している。
- 相談受付経路との関係では、就学前は「警察」、「市町村（児童福祉）」の順での受付となっているが、就学後は「学校」からの受付が最も多くなっている。

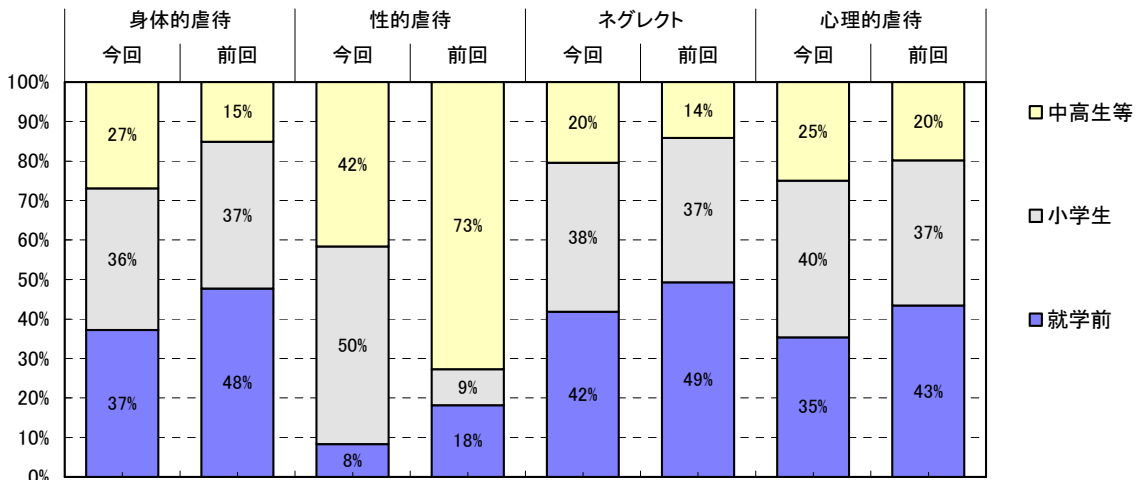
①被虐待児童の在学状況

図-15



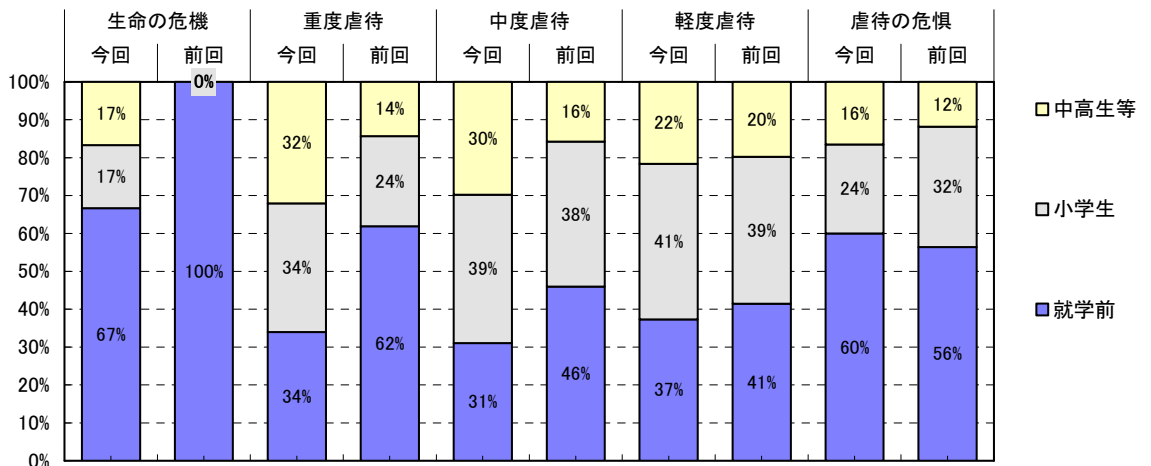
②虐待種別と被虐待児童の在学状況の関係

図-16



③虐待重症度と被虐待児童の在学状況の関係

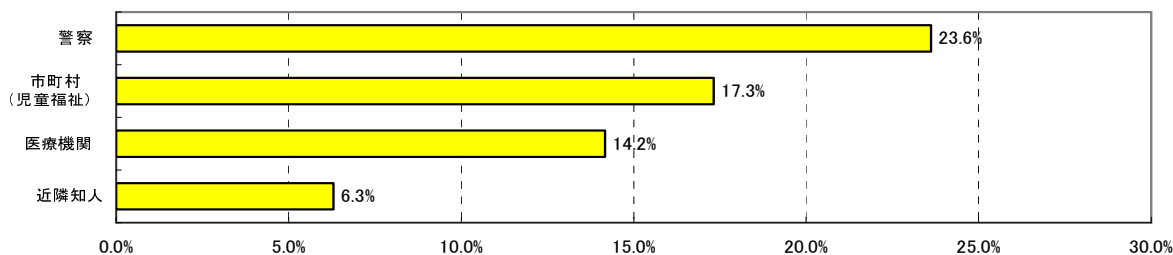
図-17



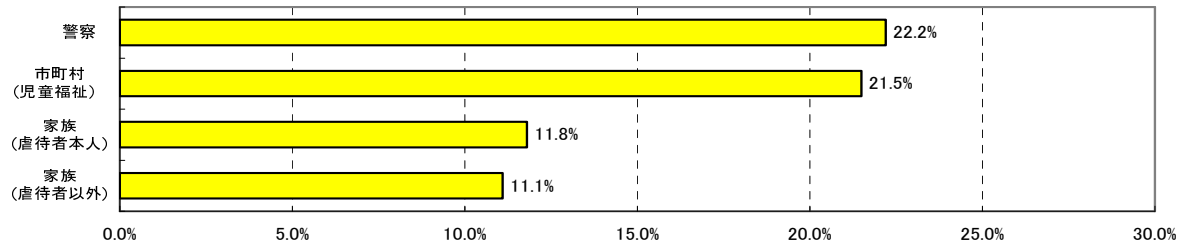
④在学状況別相談受付経路（上位4位）

家庭にいる乳幼児

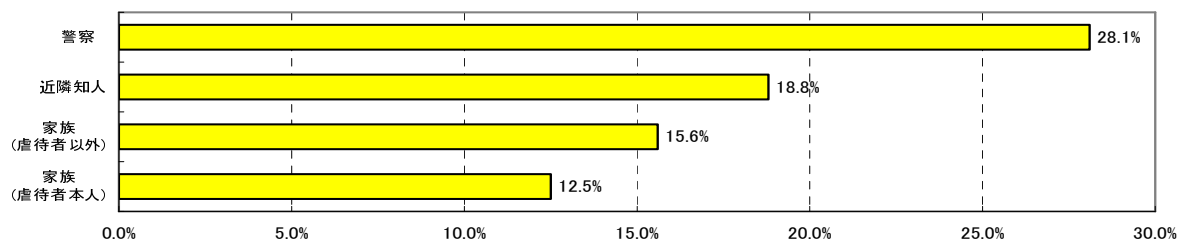
図-18



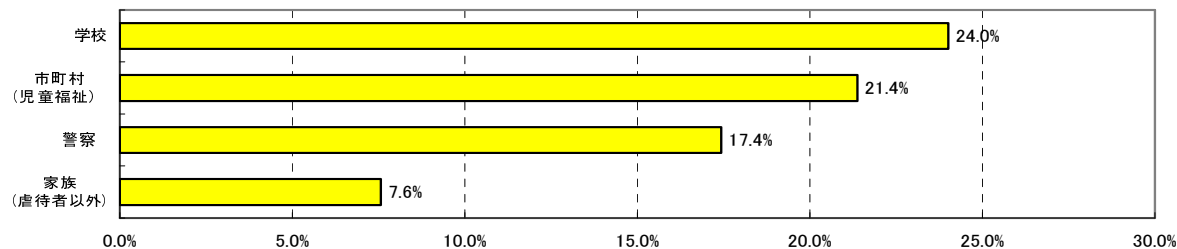
保育所・その他の保育施設



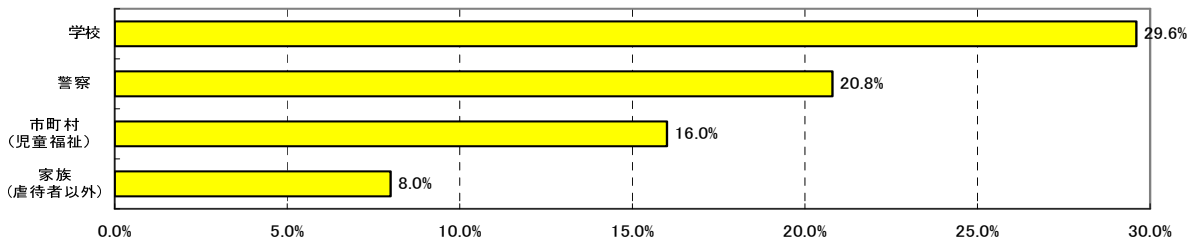
幼稚園



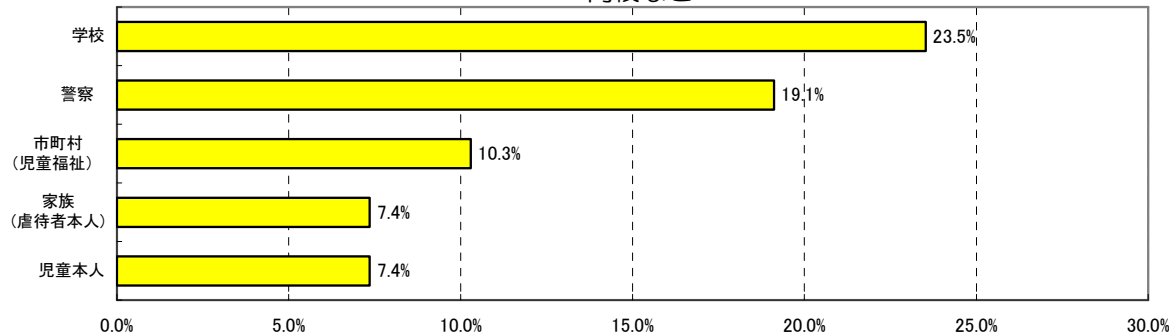
小学校



中学校



高校など



(3) 被虐待児童自身の状況

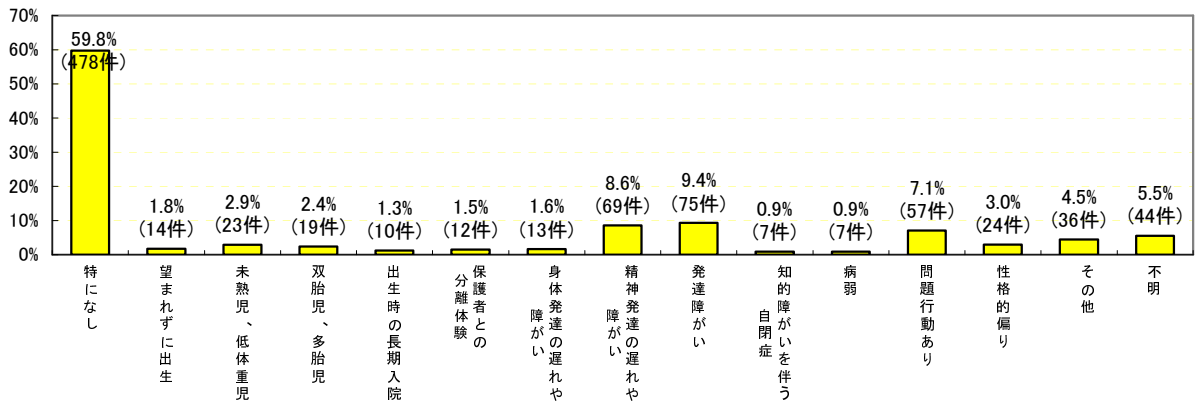
○被虐待児童自身の虐待につながると思われる状況についてみると、「特になし（特別な事情が見られない）」の割合は、59.8%となっている。

○虐待につながると思われる状況としては、「発達障害」9.4%、「精神発達の遅れや障害」8.6%、「問題行動あり」7.1%等、関わりにくさを抱えている子どもの割合がそれぞれ1割弱となっている。関わりにくい子どもに対し、保護者の不適切な対応が生じてしまうことがあるのではないかと考えられる。

○「身体的虐待」に関して、全体の被虐待児童の状況と同様の傾向がみられる。

①虐待につながると思われる被虐待児童の状況

図-19



※「特になし」以外の項目は、複数回答が含まれる

②虐待につながると思われる被虐待児童の状況と虐待種別

表-22 (件数、横構成比)

虐待種別	特になし	望まれずに出生	未熟児、低体重児	双胎児、多胎児	出生時の長期入院	保護者との分離体験	身体発達の遅れや障害	精神発達の遅れや知的障がい	発達障害	知的障がいを伴う自閉症	病弱	問題行動あり	性格的偏り	その他	不明	被虐待児童数
身体的虐待	124 53.0%	4 1.7%	6 2.6%	6 2.6%	1 0.4%	2 0.9%	3 1.3%	21 9.0%	37 15.8%	3 1.3%	0 0.0%	25 10.7%	3 1.3%	12 5.1%	10 4.3%	234
性的虐待	6 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%	2 16.7%	12
ネグレクト	168 57.1%	7 2.4%	12 4.1%	10 3.4%	6 2.0%	7 2.4%	6 2.0%	33 11.2%	19 6.5%	4 1.4%	5 1.7%	12 4.1%	13 4.4%	13 4.4%	18 6.1%	294
心理的虐待	180 69.2%	3 1.2%	5 1.9%	3 1.2%	3 1.2%	3 1.2%	4 1.5%	13 5.0%	19 7.3%	0 0.0%	2 0.8%	18 6.9%	8 3.1%	10 3.8%	14 5.4%	260
DV目撃を除く	114 65.5%	3 1.7%	3 1.7%	2 1.1%	2 1.1%	3 1.7%	2 1.1%	11 6.3%	16 9.2%	0 0.0%	2 1.1%	13 7.5%	7 4.0%	7 4.0%	8 4.6%	174
DV目撃	66 76.7%	0 0.0%	2 2.3%	1 1.2%	1 1.2%	0 0.0%	2 2.3%	2 2.3%	3 3.5%	0 0.0%	0 0.0%	5 5.8%	1 1.2%	3 3.5%	6 7.0%	86

③虐待につながると思われる被虐待児童の状況と虐待重症度

表-23 (件数、横構成比)

虐待重症度	特になし	望まれずに出生	未熟児、低体重児	双胎児、多胎児	出生時の長期入院	保護者との分離体験	身体発達の遅れや障害	精神発達の遅れや知的障がい	発達障害	知的障がいを伴う自閉症	病弱	問題行動あり	性格的偏り	その他	不明	被虐待児童数
生命の危機	3 50%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 17%	0 0%	6
重度虐待	26 49.1%	2 3.8%	3 5.7%	2 3.8%	0 0.0%	1 1.9%	2 3.8%	9 17.0%	3 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	5 9.4%	2 3.8%	2 3.8%	5 9.4%	53
中度虐待	129 54.9%	5 2.1%	6 2.6%	5 2.1%	4 1.7%	6 2.6%	4 1.7%	25 10.6%	30 12.8%	4 1.7%	1 0.4%	20 8.5%	8 3.4%	9 3.8%	10 4.3%	235
軽度虐待	274 65.1%	4 1.0%	8 1.9%	6 1.4%	3 0.7%	4 1.0%	6 1.4%	30 7.1%	36 8.6%	2 0.5%	5 1.2%	27 6.4%	11 2.6%	20 4.8%	19 4.5%	421
虐待の危機	46 54.1%	2 2.4%	6 7.1%	6 7.1%	3 3.5%	1 1.2%	1 1.2%	5 5.9%	5 5.9%	1 1.2%	1 1.2%	5 5.9%	3 3.5%	4 4.7%	10 11.8%	85

(4) 被虐待児童の出生時の状況

- 被虐待児童の出生時の体重をみると、低出生体重児の占める割合が 17.1%と、県平均 8.3%と比べて高い。
- 母の妊娠の状況と虐待種別では、「妊娠後の婚姻」、「未婚の出産」で、ネグレクトの割合がそれぞれ 44%、67%と高くなっている。また、母の妊娠の状況と虐待重症度でも、「妊娠後の婚姻」、「未婚の出産」で、重度の割合がそれぞれ 9%、14%と高くなっている。
- 出生時における母の年齢割合では、県平均に比べると、10代(調査 4.9%、山形県 1.0%)と 20代前半(調査 30.1%、山形県 10.8%)の若い世代の割合が高くなっている。
- 妊娠に対する心の準備ができていなかったことが、育児不安や育児困難を生じさせ、それが、虐待につながってしまうケースがあるものと考えられる。
- 出産時の状況は、被虐待児童の病院外(自宅)や飛び込み出産による分娩は、2.2%(虐待者が母の場合は 2.5%)と、県平均の自宅・その他での分娩(0.1%)に比べると高くなっている

①出生体重の状況

表-24 (件数、横構成比)

	回答数	正常体重	低出生体重	低出生体重児	低出生体重児	極小未熟児	超未熟児
		2,500g以上	2,500g未満	2,000~2,499g	1,500~1,999g	1,000~1,499g	1,000g未満
今回	333	276	57	39	12	4	2
	100.0%	82.9%	17.1%	11.7%	3.6%	1.2%	0.6%
前回	244	207	37	23	8	1	5
	100.0%	84.8%	15.2%	9.4%	3.3%	0.4%	2.0%

※低出生体重児の占める割合の過去 10 年間の県平均は、8.3%

②母の妊娠の状況と虐待種別

表-25 (件数、横構成比)

	身体的虐待	性的虐待	ネグレクト	心理的虐待	DV目撃		計
					DV目撃を除く	DV目撃	
回答数	181	9	227	199	131	68	616
	29%	1%	37%	32%	21%	11%	100%
父、母婚姻しての妊娠	150	7	155	171	114	57	483
	31%	1%	32%	35%	24%	12%	100%
妊娠後の婚姻	23	1	33	18	11	7	75
	31%	1%	44%	24%	15%	9%	100%
未婚の出産	8	1	39	10	6	4	58
	14%	2%	67%	17%	10%	7%	100%

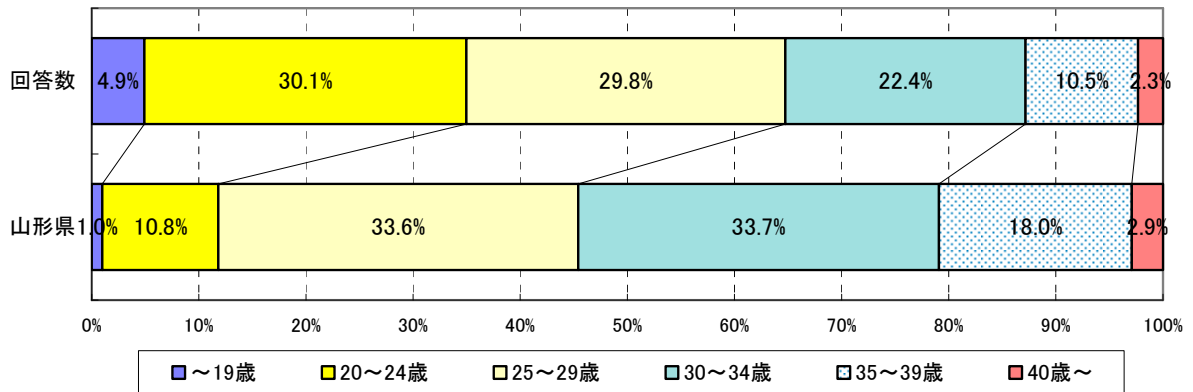
③母の妊娠の状況と虐待重症度

表-26 (件数、横構成比)

	生命の危機	重度虐待	中度虐待	軽度虐待	虐待の危機	計
	回答数	6	42	192	316	60
	1%	7%	31%	51%	10%	100%
父、母婚姻しての妊娠	2	27	149	263	42	483
	0%	6%	31%	54%	9%	100%
妊娠後の婚姻	1	7	27	30	10	75
	1%	9%	36%	40%	13%	100%
未婚の出産	3	8	16	23	8	58
	5%	14%	28%	40%	14%	100%

②出生時の母の年齢別割合

図-20



※山形県の母の年齢別割合は、平成24年人口動態統計による

③母子健康手帳の交付状況

表-27 (件数、横構成比)

	回答数	あり	なし
回答数	612	604	8
	100.0%	98.7%	1.3%
うち主たる虐待者が実母	392	385	7
	100.0%	98.2%	1.8%

《参考》山形県の妊娠届出状況

	妊娠届出	分娩前	分娩後
山形県	8,226	8,207	17
	100.0%	99.8%	0.2%

※妊娠届出≒母子健康手帳交付

※回答数は、不明を除いたもの

④妊婦検診の受診状況

表-28 (件数、横構成比)

	回答数	受けた	受けていない
回答数	576	561	15
	100.0%	97.4%	2.6%
うち主たる虐待者が実母	367	354	13
	100.0%	96.5%	3.5%

※回答数は、不明を除いたもの

⑤出産時の状況

表-29 (件数、横構成比)

	回答数	通常に病院等 で出産	病院等への飛 び込み出産	自宅分娩
回答数	634	620	2	12
	100.0%	97.8%	0.3%	1.9%
うち主たる虐待者が実母	407	397	2	8
	100.0%	97.5%	0.5%	2.0%

※回答数は、不明を除いたもの

※「自宅分娩」には、自宅での墜落分娩等も含まれる

《参考》山形県の出生の場所別にみた出生数 (資料:平成24年人口動態統計)

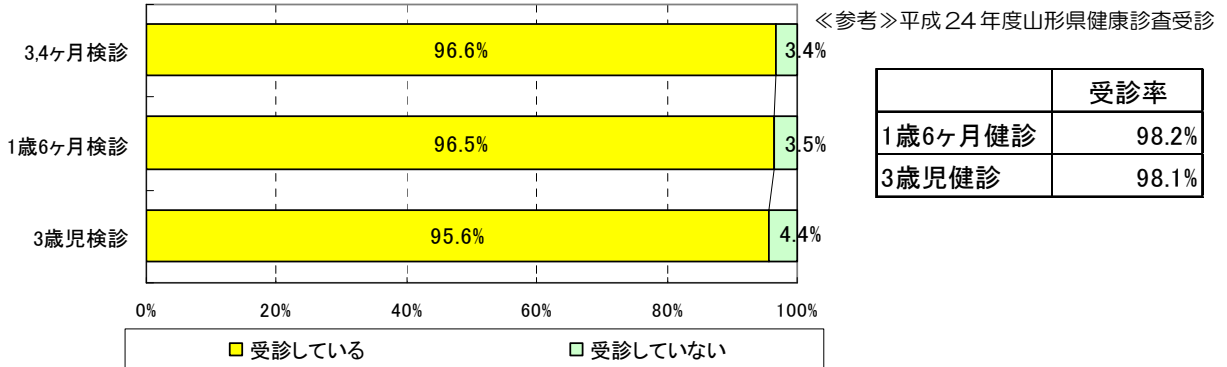
	総数	施設内(病院・ 診療所)で出産	自宅	その他
山形県	8,212	8,206	5	1
	100.0%	99.9%	0.1%	0.0%

(5) 被虐待児童の健診の受診状況

○被虐待児童の健診の受診率（1歳6ヶ月健診96.5%、3歳児健診95.6%）は、県の受診率（1歳6ヶ月健診98.2%、3歳児健診98.1%）よりも低い傾向にある。
 ○3つの健診ともに、虐待種別では「ネグレクト」の受診率が他の虐待種別よりも低い。
 ○3つの健診ともに、虐待重症度では「重度虐待」の受診率が他の虐待種別よりも低い。
 ※「性的虐待」、「生命の危機」は件数が少なく、他の種別よりも大きい数字になりやすい。

①被虐待児童の健診の状況

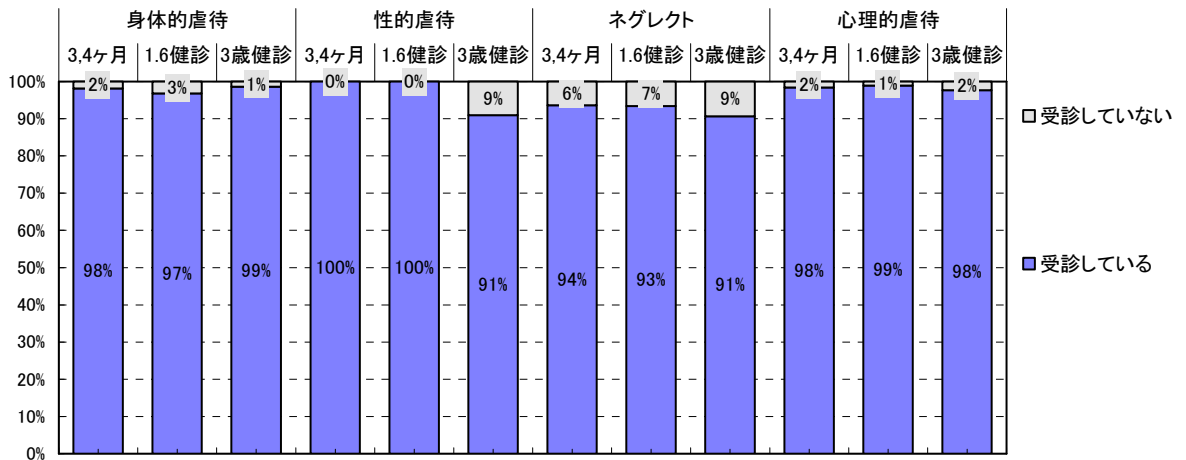
図-21



※回答数は、不明及び無回答を除いたもの

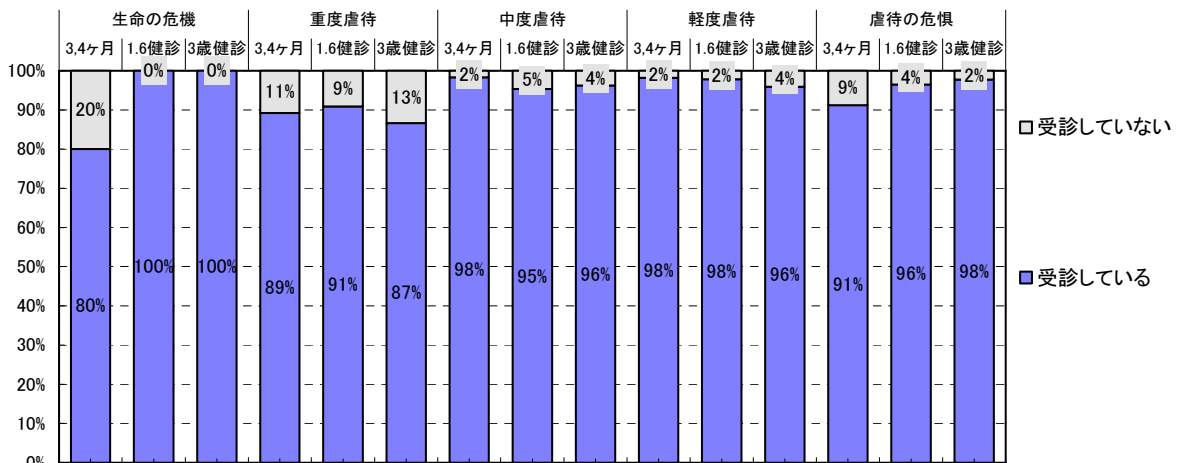
②被虐待児童の検診の状況と虐待種別

図-22



③被虐待児童の検診の状況と虐待重症度

図-23



(6) 被虐待児童の虐待の認知状況

- 「不当にひどいことをされたと感じている」は、全体の 36%を占めるが、「ひどいことをされたと感じていない」も 20%あり、身体的虐待以外では、虐待行為を親のすることとして、受け入れてしまっているところがあるのではないかと考えられる。
 - 「不当にひどいことをされたと感じている」の割合が高いのは、「身体的虐待」48.9%、「性的虐待」60.0%となっている。身体・精神的な苦痛をともなっているかどうかは虐待の認知に影響しているのではないかと考えられる。
 - 「身体的虐待」の場合、他と比べて「ひどいことをされたが自分が悪いから仕方がないと感じている」の割合が高くなっているが、子ども自身の行動に対する叱責という形で虐待が行われることが多いため、そのように思い込んでしまいやすい面があるのではないかと考えられる。
 - 「ネグレクト」では「不当にひどいことをされたと感じている」は 18.1%と低く、「ひどいことをされたと感じていない」が 36.7%と高い。
 - 「軽度虐待」「虐待の危機」では、「ひどいことをされたと感じている」の割合が下がり、「ひどいことをされたと感じていない」の割合が上がる。
- ※「意思が確認できない」には、年齢が低かったり、知的障害のため意思表示ができない場合が含まれている。

①被虐待児童の虐待の認知状況

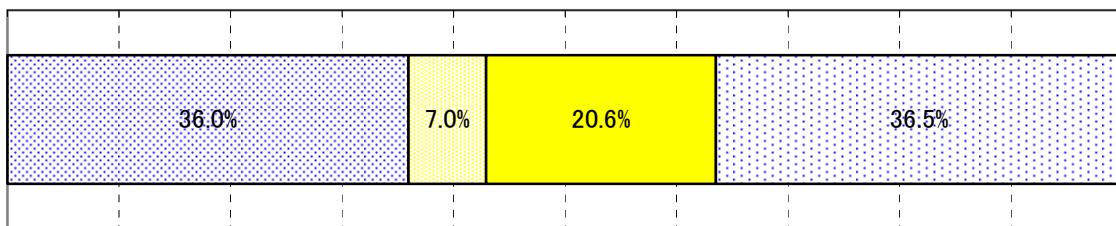
表-30 (件数、横構成比)

不当にひどいことをされたと感じている	ひどいことをされたが自分が悪いから仕方がないと感じている	ひどいことをされたと感じていない	意思が確認できない	計
206	40	118	209	573
36.0%	7.0%	20.6%	36.5%	100.0%

※不明を除く

被虐待児童の虐待の認知状況

図-24



- 不当にひどいことをされたと感じている
- ひどいことをされたが自分が悪いから仕方がないと感じている
- ひどいことをされたと感じていない
- 意思が確認できない

②被虐待児童の虐待の認知状況と虐待種別

表-31（人数、横構成比）

	不当にひどいことをされたと感じている	ひどいことをされたが自分が悪いから仕方がないと感じている	ひどいことをされたと感じていない	意思が確認できない	計
身体的虐待	86 48.9%	24 13.6%	5 2.8%	61 34.7%	176 100.0%
性的虐待	6 60.0%	0 0.0%	2 20.0%	2 20.0%	10 100.0%
ネグレクト	39 18.1%	5 2.3%	79 36.7%	92 42.8%	215 100.0%
心理的虐待	75 43.6%	11 6.4%	32 18.6%	54 31.4%	172 100.0%
DV目撃を除く	59 47.2%	9 7.2%	23 18.4%	34 27.2%	125 100.0%
DV目撃	16 34.0%	2 4.3%	9 19.1%	20 42.6%	47 100.0%

※不明を除く

②被虐待児童の虐待の認知状況と虐待重症度

表-32（人数、横構成比）

	不当にひどいことをされたと感じている	ひどいことをされたが自分が悪いから仕方がないと感じている	ひどいことをされたと感じていない	意思が確認できない	計
生命の危機	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	5 83.3%	6 100.0%
重度虐待	18 40.9%	2 4.5%	5 11.4%	19 43.2%	44 100.0%
中度虐待	96 47.8%	10 5.0%	41 20.4%	54 26.9%	201 100.0%
軽度虐待	83 31.2%	28 10.5%	56 21.1%	99 37.2%	266 100.0%
虐待の危惧	8 14.3%	0 0.0%	16 28.6%	32 57.1%	56 100.0%

※不明を除く

(7) 虐待による影響

(身体への影響)

○被虐待児童の 18.9%に、外傷等の被虐待による身体への影響が見られる。

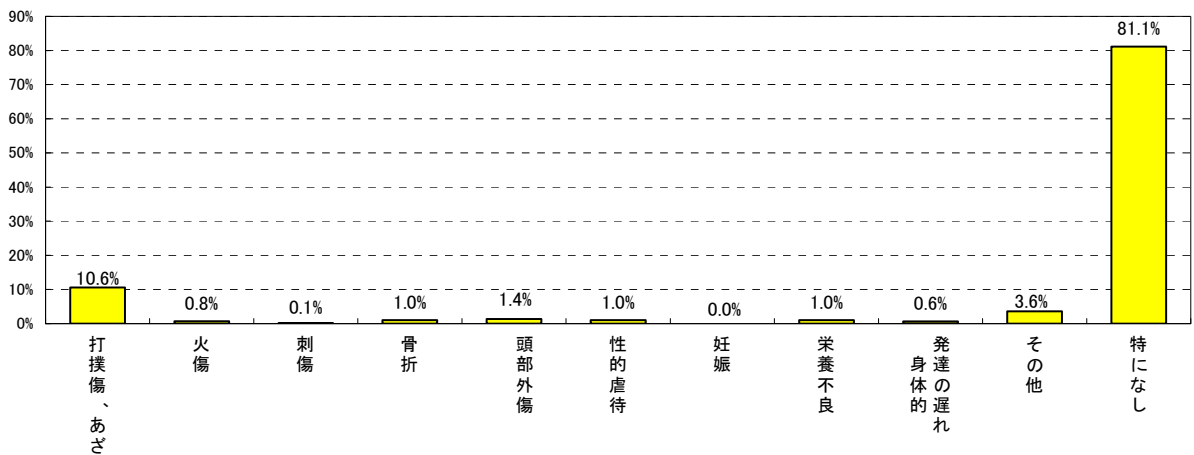
(精神への影響)

○被虐待児童の 40.1%に、被虐待による精神への影響が見られ、虐待が子どもの人格形成や情緒発達に与える影響が大きいことを表している。

○「対人関係の問題」9.0%、「日常生活に支障をきたすような精神症状・問題行動等」8.1%の割合が高く、「強い攻撃性」4.0%、「多動・落ち着きのなさ」6.4%、「非社会的な問題行動」5.9%、「反社会的な問題行動」5.8%等の行動上の問題につながっている割合も高い。

①被虐待による児童の身体の状態（複数回答）

図-25



②被虐待による児童の身体の状態と虐待種別（複数回答）

表-33（件数、横構成比）

	打撲傷、あざ	火傷	刺傷	骨折	頭部外傷	性的虐待	妊娠	栄養不良	身体的発達の遅れ	その他	特になし	回答数
身体的虐待	70 29.9%	5 2.1%	1 0.4%	5 2.1%	7 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	4 1.7%	148 63.2%	234 100.0%
性的虐待	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 41.7%	12 100.0%
ネグレクト	12 4.1%	1 0.3%	0 0.0%	3 1.0%	3 1.0%	2 0.7%	0 0.0%	7 2.4%	5 1.7%	21 7.1%	243 82.7%	294 100.0%
心理的虐待	2 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.5%	253 97.3%	260 100.0%
DV目撃を除く	2 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%	170 97.7%	174 100.0%
DV目撃	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.5%	83 96.5%	86 100.0%

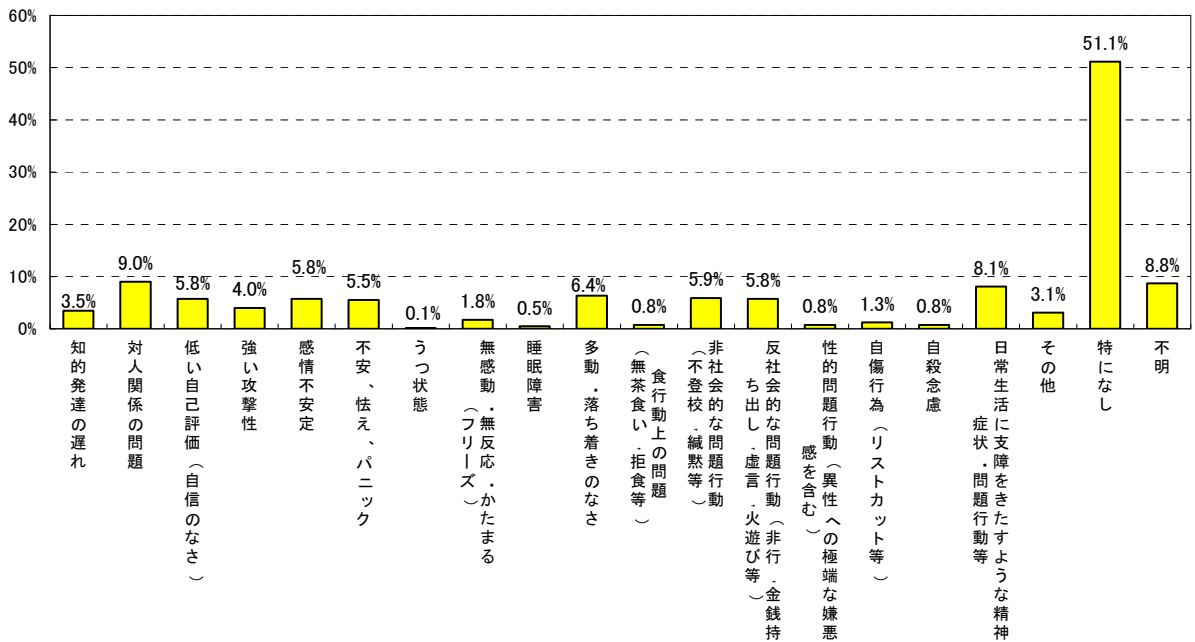
③被虐待による児童の身体の状態と虐待重症度（複数回答）

表-34（件数、横構成比）

	打撲傷、あざ	火傷	刺傷	骨折	頭部外傷	性的虐待	妊娠	栄養不良	身体的発達の遅れ	その他	特になし	回答数
生命の危機	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	6 100.0%
重度虐待	8 15.1%	1 1.9%	0 0.0%	4 7.5%	4 7.5%	6 11.3%	0 0.0%	3 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	32 60.4%	53 100.0%
中度虐待	37 15.7%	2 0.9%	1 0.4%	1 0.4%	2 0.9%	2 0.9%	0 0.0%	3 1.3%	0 0.0%	7 3.0%	181 77.0%	235 100.0%
軽度虐待	35 8.3%	3 0.7%	0 0.0%	1 0.2%	2 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.5%	3 0.7%	18 4.3%	358 85.0%	421 100.0%
虐待の危機	4 4.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.4%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.4%	2 2.4%	76 89.4%	85 100.0%

④虐待に起因すると思われる児童の精神症状（複数回答）

図-26



⑤虐待に起因すると思われる児童の精神症状と虐待種別（複数回答）

表-35(件数、横構成比)

	知的発達遅れ	対人関係の問題	低い自己評価（自信のなさ）	強い攻撃性	感情不安定	不安、怯え、パニック	うつ状態	無感動・無反応・かたまる（フリーズ）	睡眠障害	多動・落ち着きのなさ	食行動上の問題（無茶食い、拒食等）	非社会的な問題行動（不登校、緘黙等）	反社会的な問題行動（非行、金銭持ち出し、虚言、火遊び等）	性的問題行動（異性への極端な嫌悪感を含む）	自傷行為（リストカット等）	自殺念慮	日常生活に支障をきたすような精神症状・問題行動等	その他	特になし	不明	回答数
身体的虐待	9	21	20	17	13	23	0	7	1	22	3	8	20	0	1	1	25	8	101	22	234
	3.8%	9.0%	8.5%	7.3%	5.6%	9.8%	0.0%	3.0%	0.4%	9.4%	1.3%	3.4%	8.5%	0.0%	0.4%	0.4%	10.7%	3.4%	43.2%	9.4%	100%
性的虐待	1	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	2	5	1	12
	8.3%	16.7%	8.3%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	16.7%	41.7%	8.3%	100%	
ネグレクト	17	30	12	7	8	4	0	2	1	17	3	21	17	4	2	1	23	5	164	27	294
	5.8%	10.2%	4.1%	2.4%	2.7%	1.4%	0.0%	0.7%	0.3%	5.8%	1.0%	7.1%	5.8%	1.4%	0.7%	0.3%	7.8%	1.7%	55.8%	9.2%	100%
心理的虐待	1	19	13	8	24	16	1	5	2	12	0	17	8	1	6	3	17	10	139	20	260
	0.4%	7.3%	5.0%	3.1%	9.2%	6.2%	0.4%	1.9%	0.8%	4.6%	0.0%	6.5%	3.1%	0.4%	2.3%	1.2%	6.5%	3.8%	53.5%	7.7%	100%
DV目撃を除く	1	14	9	5	18	14	1	5	2	8	0	15	5	1	5	3	13	5	88	11	174
	0.6%	8.0%	5.2%	2.9%	10.3%	8.0%	0.6%	2.9%	1.1%	4.6%	0.0%	8.6%	2.9%	0.6%	2.9%	1.7%	7.5%	2.9%	50.6%	6.3%	100%
DV目撃	0	5	4	3	6	2	0	0	0	4	0	2	3	0	1	0	4	5	51	9	86
	0.0%	5.8%	4.7%	3.5%	7.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%	2.3%	3.5%	0.0%	1.2%	0.0%	4.7%	5.8%	59.3%	10.5%	100%

⑥虐待に起因すると思われる児童の精神症状と虐待重症度（複数回答）

表-36(件数、横構成比)

	知的発達遅れ	対人関係の問題	低い自己評価（自信のなさ）	強い攻撃性	感情不安定	不安、怯え、パニック	うつ状態	無感動・無反応・かたまる（フリーズ）	睡眠障害	多動・落ち着きのなさ	食行動上の問題（無茶食い、拒食等）	非社会的な問題行動（不登校、緘黙等）	反社会的な問題行動（非行、金銭持ち出し、虚言、火遊び等）	性的問題行動（異性への極端な嫌悪感を含む）	自傷行為（リストカット等）	自殺念慮	日常生活に支障をきたすような精神症状・問題行動等	その他	特になし	不明	回答数
生命の危機	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	6
	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	50.0%	0.0%	100%
重度虐待	5	8	5	4	5	3	0	3	0	2	0	2	4	2	2	2	6	4	19	7	53
	9.4%	15.1%	9.4%	7.5%	9.4%	5.7%	0.0%	5.7%	0.0%	3.8%	0.0%	3.8%	7.5%	3.8%	3.8%	11.3%	7.5%	35.8%	13.2%	100%	
中度虐待	8	34	25	16	15	18	1	5	1	22	1	20	26	2	7	0	31	10	83	17	235
	3.4%	14.5%	10.6%	6.8%	6.4%	7.7%	0.4%	2.1%	0.4%	9.4%	0.4%	8.5%	11.1%	0.9%	3.0%	0.0%	13.2%	4.3%	35.3%	7.2%	100%
軽度虐待	12	28	14	10	24	20	0	6	1	25	5	23	13	2	1	3	22	11	244	37	421
	2.9%	6.7%	3.3%	2.4%	5.7%	4.8%	0.0%	1.4%	0.2%	5.9%	1.2%	5.5%	3.1%	0.5%	0.2%	0.7%	5.2%	2.6%	58.0%	8.8%	100%
虐待の危機	2	2	2	2	2	2	0	0	2	2	0	2	3	0	0	1	5	0	60	9	85
	2.4%	2.4%	2.4%	2.4%	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%	2.4%	2.4%	0.0%	2.4%	3.5%	0.0%	0.0%	1.2%	5.9%	0.0%	70.6%	10.6%	100%